

# 代表質問

11月定例会では、西川憲雄議員（鳥取県議会自由民主党）が、県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。

## 鳥取県議会自由民主党



西川 憲雄 議員  
選挙区 八頭郡

### 二十一世紀の姿とは

**問** 戦争又は、石油の時代と言われた二十世紀は終わり新しい世紀を迎えている今日、どのような世紀と呼ばれているか？グローバル化の中、自由貿易で発展した我が国の将来を見据えた時、二十一世紀の姿を予測しつつ、一億総活躍社会実現に向けた取組みと地方創生の取組みとがどのようにリンクしていくのか知事の認識を伺う。

**答** 一国民が一国家を形成するネーションステートの時代は変わり始め、ボーダレス化がなお一層

進むのが今世紀ではないか。また、環境の世紀と言われる新しい時代の中で、鳥取県の役割が注目されている。鳥取県が大切に育んできた自然環境や命が、新しい循環型の経済につながる、これが二十一世紀の価値観ではないか。こうした基軸による新しい村づくり、まちづくりが地方創生の王道ではないかと思う。

### 林業政策の取り組みは

**問** 持続可能な林業経営は低コスト林業や県産材の利用拡大などさらに生産性向上を図る必要があると考えるが知事の所見は。

**答** 県内の木材生産は高まっている。山が動き出した今、こうしたムーブメントを作り出していきたい。車両系の機械整備や河川系の機械整備、そうした方向に舵を切りその支援をしていく。

**問** 木材素材生産量について平成25年度の21万m<sup>3</sup>を平成31年に36万m<sup>3</sup>に引き上げる為には、県東部の素材出荷が重要である。しかし、

一日の搬出量は県西部と異なり東部は厳しい状況である。改善する為にも林道網、路網の整備が必要と考えるがどうか。

**答** やるべきことは森に対してきちんと手当てをしなければならぬ。その自覚のもとに、役場、森林組合を初めとした林業関係者、県、国がよく議論をし、調整をして優先順位をつけてやっていくべきと思う。それぞれの地域の特性と合わせた路網の整備の仕方を考えていくべき。地元のご意見を伺いよく相談しながらそれぞれの地域にふさわしい林業の発展のあり方を応援していきたい。

### 本県の歴史教育の充実

**問** 国は日本史と世界史を融合させた歴史総合を必修科目とし、近代史を充実させる方針だが、教科書に載らない我が鳥取県の歴史を子ども達に教えるべきと思う。そのためには資料等の展示スペースを既存の建物の中に設置し小学校の授業に取り組みべきでは。

**答**（教育長）学校のホールや空き教室に資料を持って行って授業を展開することもやっている。検討中だが、博物館、美術館が独立整備となったあかつきには、今の

博物館を自然あるいは歴史の博物館として改修してはどうかということも考えている。鹿児島県の例も参考にして展示の方法、学校との連携方法、受け入れ体制なども含めて検討していきたい。

### 持続可能な財政運営

**問** 時代が変わりつつある中、今までの前人の遺産に甘える生活、つまり5百万円の収入で6百万円を使う生活と決別しなければならぬ。いま一度、行政サービスとは何なのか、社会のありようとは何なのか、結論を見出して地方創生に取り組みべきでは。

**答** 住民、企業との距離感、大学を巻き込む力、顔が見えるネットワークの中に鳥取県はある。お金だけで全てをはかる事はできない。もっと大きな力を引き出す事が出来れば持続可能な形でやっていける筋道も立つ。不要不急の事務の見直しなど行財政改革も片方ですっかり進めながら、重点的に投資すべきところには投資していくことで鳥取県の未来をともに築いていきたい。

